

学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第3号】
令和元年
6月20日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

機を逃さない



教育総務課長 鎌野 武

先日、梅雨の合間に玉ねぎの収穫を行った。我が家では、毎年十一月に三百本苗を植え付け、年を越して毘沙門天大祭(毘沙門さん)で苗を二百本追加購入し、合わせて五百本を植えている。(食べきれぬわけもなく、近所や知り合いに食べてもらっているが、毎年五十個以上が倉庫の軒下に吊るされたまま、葉ネギへと変わってしまった。)玉ねぎは収穫時期になると、葉が根元から倒れ「もっいいいよ」と

教えてくれる。今年は、毘沙門さんで買ってきた苗の生育が若干早かったようで、その分約二百個の葉だけが見事に先に倒れた。玉は丸々と太っていてまさに採り頃を迎えている。農作物は収穫時期に収穫しないと、見た目も味も悪くなるし、根葉類などは、表面が傷んだり、ネズミや昆虫などに傷つけられたり腐敗したりなどのリスクも高まってしまふため、それぞれ収穫時期を示すサインがあるのだと思う。

我が家では、個々の収穫予定時期を記しておく、また収穫のサインを見落とさないよう努めているが、度々失敗している。特にじゃがいもの収穫がそうだ。じゃがいもは葉や茎が枯れてきたら収穫のサインだ。しかし、どうしても収穫時期が梅雨の時期のため、天候に合わせなければいけないのに、自分の都合に合わせた結果、時期を逸して肥大化させてしまったり腐らせてしまったりする。よくある。農業で生計を立てているわけではない。「もっいいいよ」などと言う程度で済ましているが…。

私たちは、日々、仕事を進める際の重要なことの一つに、何事も「タイミングを逃すことなく行う」ことがある。そして、そのためには、「見落とし

をなくす」「後回しを避ける」「しっかりと決断する」の三つが大切であると言われており、①日頃から状況をよく観察し、先を見通し、好機を逃さずに行動に移すことを意識すること、②今このタイミングでの行動による効果や未来のリスクを予測するよう努めること、③目標や目指したいゴールなどに向けた行動への決断を下すこと、が必要となる。

私がこれまでを振り返る中で、関係者との交渉において後手に回ったり、思いもしない方向に進んでしまったりしたことが少なからずあった。全体に影響を与えるようなことはなかったが、上司や関係する人に迷惑をかけてしまったこともあった。そうなるまでには、いくつかの重要なタイミングがあったはずであるが、それを見逃したり、決断できずに後回しにしたりしたことにより生じた結果であり、全体として受け身で事に当たった結果と言える。

今更の感はあるが、今回の「かけはし」への寄稿は、自らの振り返りのいい機会となり、また改めて「機を逃さない」ということを強く意識し、主体

的に物事に臨むことの大切さを再認識する良い機会となった。というわけで、今年のじゃがいもの収穫が楽しみである。

御殿場・小山授業研修会より
学校教育課 中西 直子

今年度の合同授業研修会が六月十二日に各会場で開催されました。今年度から中学校でも教科化され、どの学校においても道徳授業の在り方や評価の仕方について、関心が高まっていることと思います。令和元年度のテーマは「子どもが学びの実感を感じ重なる授業を目指して」学習集団づくりと新学習指導要領を意識した道徳の授業づくりでした。「子どもの思いを大切にすること」とは、端的に言うところ「子どもも理解」です。子どもの言動の背景にある、その子らしさを見取ることができるよう、日々の学級経営をどう切り盛りしていくかが重要になってくると思います。

玉穂小学校の授業を参観しました。授業を通して、伸び伸びとした子供たちと担任の先生との温かい関係性が伝わってくる授業でした。

アプローチ・スタートの意識を高める

御殿場市幼保こ小中合同研修会

幼稚園指導員 瀬戸 亮策



五月晴れの五月十一日の土曜日、「ふしぎくら」に二百二十人も幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校の先生・保育士のみなさんが集まりました。毎年行われている合同研修会ですが、今回の研修テーマは「幼児教育と義務教育の相互理解と円滑な接続」でした。

特に幼小接続にポイントを絞り、学校教育課と保育園幼稚園課が連携して立てた接続構想の理解を深める研修会でした。幼小接続にポイントを置くことで中小接続の意識も高まり、これからの中学校区ごとの連携・一貫研修が充実していくこともねらいの一つでした。

幼児教育

- ・時間と空間が弾力的
- ・生活や経験を重視
- ・方向目標
「～を味わう、感じる」
- ・遊びを通した
総合的な指導
- ・個人内評価

小学校教育

- ・時間と空間が固定的
- ・教科カリキュラム
- ・到達目標
「～できる」
- ・教科を中心とした
指導
- ・到達度評価

から「幼・小の円滑な接続をめざして」という演題で講演がありました。講演は三つの柱で話が進みました。一つ目は「幼児教育と小学校教育の違いや特徴を知る」です。嶋田先生が示してくださったポイントが、とても端的でした。



接続の重要性を、主に小学校学習指導要領の新旧比較(下団の図)から

このように違いはありますが、「資質・能力の育成」という根幹の部分は共通点になっていました。二つ目は「幼稚園教育要領等と小学校学習指導要領との比較」です。キーワードを含め保育者・教師がお互いに意識しておきたい文言がいくつかありました。幼小

説明していただきました。三つめは「接続期におけるカリキュラム」です。幼小の円滑な接続に関する調査について、県の実態を知らせるとともに、御殿場市の連携がかなり進んでいる様子についても数値で示していただきました。その上で、幼小の円滑な接続のためにはアプローチ・スタートカリキュラムの必要性を説きながら、県版幼小接続モデルカリキュラムを紹介していただきました。

幼稚園教育要領等 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 ・遊びは幼児期にふさわしい学びである ・幼児教育は小学校の前だおしではない	小学校学習指導要領 「幼児期の教育の基礎の上に」 「幼小、小中の円滑な接続」 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮」
--	---

後半の分科会では、二十のグループに分かれて、幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校の先生・保育士さんが混ざって情報交換を行いました。小学校の先生からは、「もつと交流をしたり参観をしたりしたいが、学校が忙しくてなかなか時間を生み出すことができない。」「園から送っていただいた要録に関して、担任が決まってから学級編成資料には目を通すが、スタート前は忙しくて読めていない。」など、厳しい実態を知ることができました。半面、「支援が必要な子も周りを見て頑張っている。

子どもは子どもの中で頑張れる。だから、六年生のお手伝いも早々に卒業した。」といううれしい話も聞くことができました。また、幼稚園、保育園、こども園の保育の取組を知ること、縦の接続だけでなく横の連携の必要性を感じている方もいました。

暑い中、半日たつぷりの研修会で皆さん疲れたと思いますが、御殿場市の幼児教育と小学校教育の滑らかな接続が確実に進んでいく予感がしたのは、私だけでしょうか。参加がとうございました。

